

第2回議事録（要旨） 日時：令和2年9月1日 14:00～15:50

① 「継承」について

- ・金澤町家を「継承」していくにあたり、耐震やまちなみなどが中心であり、断熱性や気密性など生活環境に関するサポートが不足している。意匠を崩さずに生活環境を向上する技術は、「継承」していくために必要。
- ・建築基準法適用除外条例の利用が進まないという課題があるが、その原因には適用除外条例の活用が費用が高額であることにある。制度を作るだけでなく、その制度を使いやすいようにすることはとても重要。
- ・修復技術はあるがコストがかかるため、伝統技術での修復が安くできる社会になる必要がある。

② 「創出」について

- ・金沢で新築するなら木造が良いというニーズは確実にあるため、民間企業も木造を取り入れやすいような支援があると良い。
- ・これからの公共建築の設計において木を積極的に使うなど、「木の文化都市」を進める上で柱となる施策があると良い。公共建築において木を活用することができると市民へのインパクトも大きい。
- ・木造で先進的な建築を建てた企業を評価するような仕組みを作るなど、民間企業同士が競い合いながら木の活用を進めるような仕掛けがあると良い。
- ・中高層の木造建築の先進事例は、技術の高い大手ゼネコンが関わっているものがほとんどであり、地域の建設業の振興を進めるためにも、木造建築はここまでできるようになったということを地域の工務店に伝えることも必要。
- ・表彰制度などがあると面白い。市民や民間企業が目指すものがあると取り組みやすい。
- ・「継承」と「創出」と分けて考えているが、金沢においては継承しているものを「創出」につなげるイメージである。
- ・伝統環境調和区域に建つような、一般的なビルの木造化の仕組みを検討することも必要。

- ・どこまでの木が見える建物を推奨していくべきかという議論に対して、例えば医療福祉関係の方に話を聞くと、コンクリートと木造とでは木造の床の方が体の疲労が少ないと話しており、被覆型の見えない木造であっても、柔らかいという素材としての木の魅力は十分にある。「見える」「見えない」で「良い」「悪い」と判断せず、広い視野で検討を進めるべきではないか。
- ・構造材が見えないものは除外するという考え方である必要はないように思う。木を見せようとするあまり、建築の自由度が低くなっているとの指摘もある。
- ・木を魅力的に使う場合は推奨し、そうでないなら使わない方が良いという風潮があるが、森林資源の循環という観点からは、見える、見えないに関係なく、まずは木を活用することが重要。
- ・金沢で住宅を新築する場合にどのようなものがふさわしいか考え、現代版の町家のイメージを示す必要があるのではないか。木造住宅を多く手がける木造住宅協会と連携して検討することも良い。

③ 市民や業界への周知について

- ・「木の文化都市」においてどのような町を目指すか具体的なイメージ図を作成すると、市民や民間企業もイメージが湧き、取り組みやすくなる。
- ・モデル地区のイメージを具体的に描いていくと、具体的な課題やアイデアが挙がり、より議論が進むのではないか。低層の建物の多いエリアと大通りでは検討すべきことは異なるため、どのような建物を対象とするかなどが分かると良い。
- ・モデル地区における具体的な議論も重要であるが、木を活用することの意義や、「木の文化都市」を推進することで金沢がどのように豊かになるかについても、並行して整理していく必要がある。
- ・「木の文化都市」を推進していくため、早い段階で広く情報を発信し、みんなで作り上げるという雰囲気を作ることができると良い。

- ・建築業界の中でも低層、中層、高層の建物で木を活用してどのようなことができるかを全員が理解しているわけではない。勉強会などを実施し、情報を共有し、多くの人を巻き込んで推進することができるが良い。
- ・公共建築での木の活用について、木造建築の工事をしたからこそ分かるメリット・困難なことを、建築した後に振り返り発信することは、市内の木の公共建築が増えるだけでなく、他の自治体も参考とするものとなり、全国に「木の文化都市・金沢」を発信することにもつながる。

④ 循環型社会について

- ・公共施設の建築の際に、一定の割合で地元の木を使うなど、何らかの形で制度化できると良い。
- ・林業は「木の文化都市」の創出の基盤となるため、とても重要である。「木の文化都市・金沢」の創出が、石川県の林業を支えるというイメージが良いのではないかと。
- ・県内の森を、金沢の町家や「木の文化都市」の景観を創り出すための森として設定すると、林業と「木の文化都市」の推進を一緒に発信することができ、「木の文化都市」が循環型社会と一体となった取り組みであることを市民がイメージしやすいのではないかと。
- ・スギ材に限らず、広葉樹など山にある木の活用が進むような工夫が必要。家具としても活用なども考えられる。これまで活用できなかった広葉樹の活用が進むような取組ができると良い。
- ・建築に活用できる木は一部であるため、森林循環を含めて「木の文化都市」の創出を目指すには、建築に限らず食器など生活の場にあるものへの木の活用も検討していくべき。